

R 身体学際共創研究会

研究代表：新井 陽豊（スポーツ健康科学研究科，博士課程後期課程）

副研究代表：大須賀裕宇（理工学研究科，博士課程後期課程）

研究会メンバー：松村 哲平¹，豊田 聖理¹，岡本 紗弥¹

1：スポーツ健康科学研究科，博士課程後期課程

◆研究テーマ

異分野他領域との意見交換による身体に関わる新たな科学的洞察の提案

◆研究会を立ち上げたきっかけ / 背景

身体に関わる科学的な解明は，ロボティクス，AI（Artificial Intelligence），ビッグデータ，ICT（Information and Communication Technology）などの活用が急速に進み，ミクロからマクロまで深化してきている．しかし，身体に関わる研究分野・テーマを，ミクロからマクロレベルのスケールでみた場合，単一のレベルで検討されていることが多く，レベルをこえたマルチスケールでの検討は十分にされていない．学際共創研究（Transdisciplinary Research）は，単独の学問だけでは解決が難しい課題や研究テーマに対して，複数の学問を連携・融合させ研究することと定義づけられており，新たな科学的洞察と実践的な社会的利益の両方を創出することを目指す研究様式といわれ，社会課題解決ならびに社会共生価値を創出するために活用されている．身体研究をマルチスケールで検討し，**一人ひとりの多様な幸せ（well-being）が実現できる社会**，新たな価値を想像するためには，組織や専門領域の枠を超えて，**多様な「知」が集う「総合知」の活用が重要**である．また，表面的に所属や組織，分野を混ぜるというのではなく，それぞれの専門知を大事にした上で，議論を重ね新しい価値創造に向かっていくことも重要である．

◆研究会の目的

- ①他研究室・研究科に所属する研究メンバーと意見交換会や自身の研究に内容に関する議論を行い，
他分野異領域における将来有望な若手研究者・大学院生の「つながる」機会を増大させ，研究の質を高めること，
- ②活発な意見交流を通じて，各メンバーが専門的な視点を共有し，互いに学び合うこと

異分野の知見を融合させ，主に身体研究に関するマルチスケールの理解を深め，各々の学術論文の執筆に貢献すること

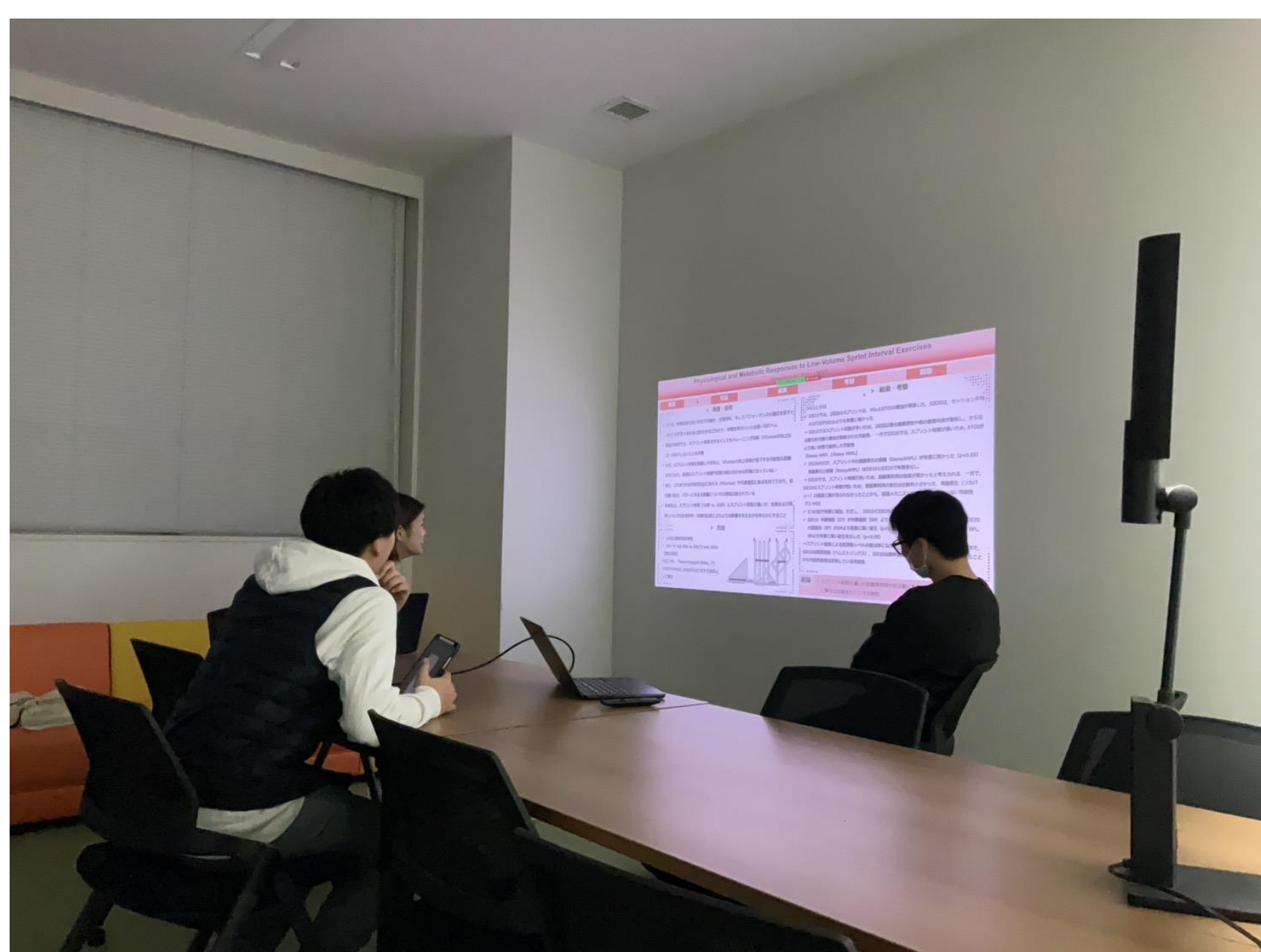
◆研究会の活動

【研究意見交換会】

✓抄読会にて他のメンバーから分析方法やその解釈について意見・見解を得ることで、各々の国内・国際学会での発表および学術論文の執筆に貢献していく．

【研究成果報告会】

✓月末の抄読会にて，成果報告会を開催し，学会発表・論文投稿状況を発表する



◆主な成果

【研究意見交換会】

✓ 研究会メンバーで計8回の研究意見交換会を実施した

【学会発表】

✓学術大会で計11演題発表した

【国際学術誌】

✓ メンバー内2名から計3件の国際学術誌が発表された

◆今後の課題

【異分野の連携不足】

✓ 研究会メンバーの多くがスポーツ健康科学研究科所属のため意見交換会の内容に偏りがあった．

→他研究科が参加できるよう，意見交換会で議論内容を改善し，内容よりも国際学術誌投稿までの流れや文章表現等を議論できるようにする